2021 Japan National Team Report " 国代表"

報告者氏名	堤　春菜
大会名	世界選手権大会
開催地	イタリア　ガルダ湖
大会期間	6/30~7/10

- 帰国後１ヶ月以内に、チームでまとめた上、JODA海外派遣担当西村までメールにて送付して下さい
- JODA理事会にて確認の後に、ホームページに公開します
- 記入時の注意点
  1. このレポートは今後海外派遣レースに参加する選手、役員また日本のジュニアのための資料です
  2. なるべく客観的な立場から、詳細に記入して下さい
  3. 大会本部や運営、他国や他国選手また特定の個人を批判するような記述はしないで下さい
- 写真資料について
  1. このレポートを補足する資料として必要です（文中に貼り付けて下さい）
  2. 他国ＯＰ艇を接近して撮影する際には、必ず相手国の選手、コーチの了解をとって下さい

開催地域の様子	世界的なコロナウィルスのパンデミック下ではありましたが、開催国イタリアへ入国した6月下旬はイタリアの感染者数が底を突いたような状態で、バカンス前という事もあり、開催地ガルダ湖周辺はずいぶん明るい雰囲気でした。
宿泊場所	HOTEL PRIMO （ホテル　プリモ） こじんまりとしていましたが、清潔でスタッフの方々も感じも良く、食事も美味しかったです。ハーバーへ徒歩15分程で行ける便利な立地で、他国の選手やIODAの方々も宿泊していました。
大会の対応は	コロナ禍ではありましたが開会式や閉会式は盛大で、熱の入った大会運営だと感じました。 窓口のスタッフの方々の対応も良く、歴史あるホストクラブの素晴らしさを感じることができました。
選手たちのコンディションは?	日本からヒースロー乗り継ぎでほぼ1日以上かけて現地に到着し、時差もあって最初はかなり疲れていたと思いますが、まずは無事に現地入りできた喜びでワクワクしていたようでした。３人の選手たちは、大会期間中は食事と睡眠も十分に取れていたようで、体調を崩す事もなく元気に過ごすことができました。
役員として気をつけたことは?	日本チームが不利益を被る事が無いように、何か気になる事が起きた場合は、すぐに大会側に問い合わせをしたり相談をするように心がけました。
海外の選手を見て感じたことは?	色々な国から様々な選手が集まっていましたが、皆明るくて伸びやかな雰囲気でした。 初日から積極的にプレゼント交換の申し出をしてくれる選手もいて、その積極性が素敵だなと思いました。

日本の選手を見て感じたことは?	菅澤虎士朗選手以外の堤悠人選手と兒島惟高選手は初めての海外レース参加だったので、レースでの海外選手のアグレッシブさなどに驚いていたようです。虎士朗選手はさすが対応に余裕が感じられました。 それぞれに海外選手との交流も出来ていたようです。
Spare day の過ごし方は?	今回は参加選手が3人だったためチームレースには参加できませんでした。そのためチームレース開催日には、和歌子コーチにお勧め頂き、バスでMalcesine（マルチェジネ）に行きました。 そこからロープウェイでMonte Baldo（バルド山）に登り、山頂からガルダ湖の眺めを楽しみました。
日本チームとしての課題	日本チームにとっては大会期間が夏休みに入る前だった事もあり、現地入りするタイミングが大会直前となってしまいました。初めてのレース海面で、練習が満足に出来ないまま大会本番を迎えることになってしまったのは少々可哀想でした。学校システムの違いを乗り越え、そのような状況下でもいかに普段の力を出し切り、目標へ近づける事ができるかが課題だと思いました。
ＪＯＤＡへの要望	コロナ禍とオリンピックが重なるイレギュラーな年の海外遠征となりましたが、無事に大会参加ができたのはJODA皆様のご協力があってこそでした。色々ご協力頂き本当にありがとうございました。
その他	コーチボートのマッチングは、各国からのリクエストを聞いてくれるようでした。大会受付時にヒアリングを受けました。事前練習でマッチングの目処を立てておけると良さそうです。

ご協力ありがとうございました　　ＪＯＤＡ海外派遣委員会